

一 題目の五字を以て下種の証文と為すべき事

仰せに云はく、經に云はく「教無量菩薩、畢竟住一乘」と。妙樂大師云はく「余教を以て種と為さず」と。無量の菩薩とは日本国の一切衆生を菩薩と開會して題目を教へたり。畢竟とは題目の五字に畢竟するなり。住一乗と云ふは「此の宝乘に乗じて直ちに道場に至らしむ」是なり。下種とはたねをくだすなり。種子とは成仏の種なり。上の經文に教無量菩薩の教の一字は下種の証文なり。教とは題目を授くる時の事なり。權教無得道・法華得道と教ふるを下種とは云ふなり。末法に入りて此の經文を出ださん人は有るべからざるなり。慥かに塔中相承の秘文なり。下種の証文秘すべし秘すべし云云。